

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691800086		
法人名	社会福祉法人 京都眞生福祉会		
事業所名	グループホーム あんずの里 (うめユニット)		
所在地	綾部市高津町遠所1番621		
自己評価作成日	平成25年2月20日	評価結果市町村受理日	平成25年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノロ上ル梅湊町83番地1「ひと・まち交流館京都」1F		
訪問調査日	平成25年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設理念:その人らしく生き生きと暮らし続ける力を地域と共に支えます。
市内を眺めることができる桜並木が続く丘の上にある特養併設型グループホームです。四季それぞれに織りなす山々の景色を眺め、風を感じることができます。お一人お一人の個性を大切に心温まる生活を提供していきたいと考えています。
花見や花火大会、秋の紅葉狩りと季節ごとの行事を大切にし、四季を肌で感じていただける生活が提供できるよう努めています。
また地域との方々の交流を大切にし、地域スーパーへの買い物、地域で催される行事に参加させていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

綾部と福知山間の府道に面した丘に老人保健施設があり、複合施設として昨年4月、特養併設型あんずの里(2ユニット・定員18名)を開設。正面には由良川と田んぼが広がり、桜並木と街路樹で四季感に溢れている。開設1年目の理念は準備室で作られ、理念「その人らしさ…」へのきめ細かな実践に取り組んでいる。利用者の平均介護度は2.5度、おむつ使用者ゼロ、入浴は生活習慣や個々の希望に応え、自由性を高める入浴支援もある。入居時、ベッド以外は、すべて馴染みの持込み物で居室づくりを支援。職員は16名中13名が常勤で、利用者と共に元気で明るい。自治会に加入し、地域行事や文化祭にも出展するなど積極的な交流があり、地域介護の拠点としての位置づけが構築されつつある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	あんずの里 理念「その人らしく生き生きと」暮らし続ける力を地域とともに支えます。」開設時よりこの理念を玄関と事務室に掲げ、職員とこの理念を共有し、利用者様の生活を支え実践につなげる様努力している。	理念は平成24年4月、設立準備室の時点で主要スタッフにより作成。玄関・事務所に掲げ、パンフレットや名札の裏面にも書き込んで共有し、常に振り返りを意識づけている。方針は、「人権の尊重、利用者の自立と地域とともに支える」を目標に利用者の「その人らしさ」の実践に取り組んでいる。	
	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人が町自治会に加入。広報誌などの回覧をいただいている。買い物は近くのスーパーを利用。町内会で実施される、地藏盆や文化祭に参加させていただく。文化祭に作品を展示させていただくなどの交流を行っている。	開設後、自治会に加入し、地域の地藏盆や地域行事、文化祭に出展するなど積極的に参加。敬老会には、踊りや子どもの演奏の来訪もあり、地域の中の位置づけが出来つつある。また、広報紙(年4回)を地元高津町(40戸)に配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の実践内容を機関誌に掲載し、自治会長様を通じて地域の方に配布していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はホーム内で開催し、日々の利用者様の生活を理解していただくよう努めている。町内で開催される行事を説明して頂いたり、開催時の議題などもアドバイスしていただきながらサーブし向上に活かしている。	自治会、行政、社協、各ユニットの家族等で構成している。会議では、事業所の状況報告と課題、地域からの情報提供、行政の連絡事項などがあり、運営上の助言を受けている。開催情報は広報紙で家族に伝えている。	事業所の運営上、重要な役割を担う会議の位置づけと、開設1年目の事業所を理解してもらうためにも、地域の「老人会」や地元の関係団体などを構成メンバーに依頼しては如何か。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎回、運営推進会議に市職員が参加して下さりアドバイスや情報をいただいている。	事業所間の連絡会はないが、包括支援センターや行政からの連絡、困難事例の相談と指導など、相互間の連携に努めている。、広報紙で事業所情報を提供している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内委員会の活動を通し身体拘束をしないケアについて学習と実践を行っている。玄関の施錠については現在、危険防止のため行わざるを得ない状況があり実施しているが、施錠しない方向への改善策を模索中である。	事業所の方針として「身体拘束をしない」を重要事項説明書に明記し、身体拘束廃止委員会で拘束Q&Aの勉強会を実施している。危険防止のため玄関を施錠した経緯があるが、家族の同意を得て改善策を検討し、現在はしていない。	

京都府 グループホーム あんずの里 うめユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内で虐待防止のための学習会を行い日々の業務の中で意識して仕事に取り組み防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内で学習会を持ち制度について学んだ。現在成年後見制度活用の方がおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時重要事項説明書、契約書を用いて説明を行い、不安や疑問点を確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者・利用者ご家族の代表に参加いただき意見や要望をいただき運営に活かしている。また利用者様からは生活の場面などで頂いて意見を、ご家族からは面会時などで個別に聞き取っている。	開設1年目で現在「家族会」が設立されていない。主として面会時に意見や要望を聞きとっている。「声の箱」を玄関に設置しているが活用されず、意見を反映させるまでの仕組みが構築されていない。	意見の反映と満足度を高めるための仕組みが必要であり、家族会の設立、アンケートの実施、本人・家族との意見交換会など、様々な機会からの活用を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を開催している。会議の中で職員の意見や提案事項を討議している。	毎月、事業所の全体会議で職員が意見を述べる会議があるが、ミーティングや各種の会議は大半が併設施設(特養)との合同の会議となっており、事業所として独自性のある運営が見えにくい状況にある。	各介護事業所には、目的や運営方針が異なるため、当事業所として独自の必要な会議のあり方と、個別面談や職員の意見・提案を聞く機会などの検討をしては如何か。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回執務考課を実施し個々の振り返りを行い成長を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は法人内の教育委員会が月1回毎開催する法人内研修会に参加。また府や社協主催の認知症関連の法人外研修に参加している。		

京都府 グループホーム あんずの里 うめユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設前に市内グループホームに職員研修を受け入れていただいた。現在も不特定ではあるが相談させていただいている。また、市内介護専門員協議会の研修に参加し交流をおこなっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に面会させていただきお話を聞きながら今の状況や思いを知るよう心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や面接を通し、ご家族の思いや要望をお聞きできるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前にご家族・ご本人面接を行いケアマネージャからの情報提供によりアセスメントし必要な対応を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意な事、できる事に役割を発揮していただき、職員と共に過ごせる日常生活が送れるよう工夫や努力を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを大切にしながらご家族の思いをくみ取りながら、面会時などの時間が有意義なものとなるよう配慮している。また広報誌あんずの里だよりを発行しご家族に利用者様の生活のご様子をお伝えするよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的な外出や外泊され、自宅で過ごす、地域の美容院に出かける。夏は墓参りに外出される等。古い友達が訪ねてこられる時もある。それぞれの時間を大切にいただいている。お正月には各利用者様がご家族に年賀状をお出しすることができた。	「その人らしく・・・」を実現するため、生活記録の中で、私のシート・家族シートにおいて、人・物・場所などの馴染みある記録とその把握に努めている。外出、外泊のほか美容院の利用、関係者や友人の訪問などもあり支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者同士の関係を考慮し、食事の席や取 組への誘いかけを行っている。孤立しがちな 利用者には職員が仲介に入るなど考慮して いる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の 経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当例がありません		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日々のかかわりの中で本人の思いを聞き 取った際は、専用シートに書き取り職員で共 有に支援につなげられるよう努めている。	入所1カ月後の時点で、入所後の利用者状況 を収集して「私の気持ちシート」に記入してい る。日々の様々な状況は「思い」や「気づき」 を記録する専用シートに書いて積み上げ、職 員の共有と個別ケアに活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入所前の面接時に聞き取った情報は、セン ター方式シートに書き込み職員で情報を共 有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	24時間経過記録やケース記録に活動状況 や心身の状況などを記入し、職員間で現状 の把握ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	生活の状況や面会時のご家族の意見を聞 き取り介護計画を作成。月毎の会議で職員 の意見を聞き取り必要時修正をかけてい る。	会議で職員が集まる機会に毎月、モニタリ ング結果を話し合い、現況把握とカンファレンス を実施している。また、家族の面会時の聞き 取りや担当者を交えて意見交換を行い、3カ 月毎に見直して介護計画を立てている。	理念「その人らしく生き生き暮らす」を 掲げる介護計画としては、身体介護項 目が多く生活プランが少ない。利用者 の生活歴を反映させ、日々の生活を 楽しめる計画の盛り込みを望む。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の24時間経過記録やケース記録を作 成し、介護計画毎の記録を行い見直しなど に役立てている。		

京都府 グループホーム あんずの里 うめユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時や終末時の対応。通院対応など、状況に応じてサービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のサークルやボランティアの方々の訪問を受け楽しいひと時を過ごしていただいたり、古くからの友人の面会で交流が深まるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力医療機関と協力して医療面でのサポートを行っています。	1か月に2回、協力医の往診があり家族も了承。24時間体制の連携もとれて家族の安心につながっている。歯科医の訪問を得て口腔ケアも行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師が配置され医療面でのケアを行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書など文章による情報交換や病院ソーシャルワーカーとの情報交換に努めています。また必要に応じて面会やご家族との連絡を取っています。病院関係者と相談し早期退院できるよう協働しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時重度化に向けた方針を説明させていただいています。終末時や急変時に再度意向の確認を行い、チーム全体で支援できるよう検討し対応します。	本年2月に事例が発生し、協力医と協議して「重度化した場合の対応に係る指針」を作成。重要事項説明書に明記し、入居時に説明している。今後、職員全体で具体的な取り組みへの研修を重ね、事業所全体で支援をめざすこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習会が法人内で実施され受講していない職員は全員受講。法人内でホロー研修が実施されました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と合同避難訓練を法人内で2回実施。夜間を想定した連絡網実施訓練も2回実施された。	火災設備に係るハード面が整備されている。夜間を想定した特養との合同訓練を実施している。地域の自主防災会に加入し、事業所を地域の避難場所に提供しており、備蓄は、法人にて保管、管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な言葉かけや対応をしている場面にはその都度注意しあい、利用者様のほこりやプライバシーを損ねないように注意しあっている。	個々の生活を大切に人格を尊重し、接遇委員会研修や「言葉かけ」に注意して対応している。個人情報保護、広報紙の写真掲載は、別紙で同意を得ている。衣服選びも、自己決定に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己決定出来る場面をつくれるよう配慮している。職員からの押し付けでなく利用者個々の思いや希望が聞き取れているか職員で振り返ったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者様の状況を確認しながら日課を決めている。過ごし方を提案したり、共に考えている。体調を見ながらひとり一人のペースやリズムを大切に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分の意志で着る服を決めて頂いたり、お化粧をされる方はご家族から持参していただき実施していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	炊飯前のお米洗いの役割を持っていただいたり、食事前のテーブルセッティングや配膳などを利用者の方々と行っている。下膳や食器洗いを職員と共にやって頂いている。	三食とも併設の特養と同様に栄養課から提供。利用者の配膳・下膳の参加があり、食事中は状況によりテレビを消しBGMを流して食事を楽しんでいる。おやつは希望も入れて取り組んでいる。	食事は、日常生活の中で重要であるため一食分だけでも職員と利用者と共に協力をして、事業所で食事づくりをしては如何か。また、外食の機会も取り入れたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	24時間経過記録に水分や食事量を記入し一日量の確認を行っている。法人内管理栄養士のアドバイスを受け糖尿病や腎臓病の利用者の食事にも配慮している。また摂食障害の利用者にソフト食で対応を行った。		

京都府 グループホーム あんずの里 うめユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアが行えるよう援助している。夜間は義歯洗浄。保存を行い利用者様の状況を見て管理している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間経過記録で把握した排泄パターンを利用し排泄誘導などの工夫をしている。	個々の排泄パターンを把握してトイレ誘導している。自然排便を促し、栄養課にて便秘を防ぐ対応管理もしている。現在、おむつ使用者はゼロ、トイレは1ユニットに5か所ある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	24時間経過記録に沿って排便状況の確認を行っている。便秘がちの方には食物繊維パウダーを使用したり、下剤服用の方には服薬時水分を多くとっていただくよう配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は一応設定してあるがご希望がある場合、その時間帯に対応できるように配慮している。	各ユニット毎に広い個浴を設置。週3回の入浴を実施し、入浴時間は生活習慣や個々の希望に応え柔軟に対応。ゆず湯、菖蒲湯なども取り入れたり、自立性を高めるため、見守りの入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状況に応じて室温・照明・寝具等その時々で対応している。ベッドはホームで設置している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様のお薬説明書を薬保管場所に入ファイルいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの力を活かして役割や趣味・楽しみごとを把握し、それ活かした援助を行っている。		

京都府 グループホーム あんずの里 うめユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日は施設周囲の散歩や日光浴を楽しまれている。買い物やドライブに出かけたり、地域の文化祭を見学に出かけたりしています。」またご家族の協力でお墓詣りや温泉・外食を楽しまれる方のいらっしゃいます。	日常的には自然に恵まれた施設周辺を散歩するほか、おやつや食材購入に出かけている。また、年1回の地元の文化祭、安国寺へのドライブがあるが、他は家族に依頼しており、事業所として思うような外出支援ができていない状況がある。	理念「生き生きとした暮らしを続ける」ためにも個々の希望による外出支援は、重要である。事業所として車両など実践できる環境を整え、多岐にわたる外出支援の取り組みが望まれる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパー等での買い物時に、金銭感覚や支払い能力が維持できるようにその方の能力により支払いを依頼し見守り援助を行ったりします。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を利用されていらっしゃる利用者様が数人あり、自由にご家族や親しい方に電話連絡されています。また希望があれば施設電話を利用していただくことも可能です。手紙やはがきのやり取りをされる利用者もいらっしゃいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や季節ごとに利用者・職員で作成した作品を飾ったりしています。ご家族が撮られた季節写真を掲示させていただいております。	玄関や台所、食堂も広く、自由性の高いソファを設置。床面、壁、天井も明るく、円形の照明とダウンライトの温かな光、部屋は二重カーテンで調整。空調設備、加湿機を設置している。季節の花や手作りの雛人形、季節の写真などで生活感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性を考慮した配席。リビングのソファで気の合った利用者同士で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に本人が使い慣れた物を出来るだけ持参していただけるよう説明している。タンスやソファ、家族の写真などを持参されご本人が心地よく過ごせるような工夫をしている。	各室とも洋風居室にベッドを設置。入居時、馴染みの家具や寝具など、持ち込みは自由。配置は本人・家族と相談し、思い出の写真や置物、衣服かけ、テーブルなどを置き、個性ある部屋づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がなく移動しやすい設計となっている。浴室・トイレ・洗面台の手すりの配置など利用者が使いやすく、援助なしでも自分で行えるよう配置されている。		